

— 寄 稿 —

有明海異変の発生システム図の補正*

宇野木 早苗 † ・佐々木 克之 ‡

著者らは「海の研究」第16巻第4号(2007, 319–328)において、「有明海異変の発生システムについて」という報告を行い、この中の図2で有明海異変の発生システム図を発表した。その後見直したところ、図中に描き洩らしている項目が見出されたので、その部分について追加を行なう。

前回の報告において、データ解析とシミュレーションの結果によれば、諫早湾干拓事業後の有明海湾奥部におけるM₂分潮の振幅減少の約半分は、諫早湾干拓事業の影響と考えられることを述べた。しかし、残り半分が「外海の潮汐減少」によることを明示していなかったため、今回の改訂システム図(図1)にその部分を追加した。

この外海の潮汐減少が有明海の潮流に及ぼす影響について付記する。外海沿岸のM₂分潮の値から推測すると、外海の潮汐は潮受堤防締め切り後はそれ以前に比べて2%前後減少している。このために諫早湾干拓事業が行なわれなかった場合には、有明海における潮流は、外海における潮汐の減少率と同程度の割合で減少するはずである。ところが堤防締め切り後にはこれと大きく異なり、観測された潮流は堤防付近では100%近く減少し、諫早湾口でも10%~30%も弱まっている。これは基本的に、干拓事業の堤防締め切りによる地形変化の効果である。それゆえ前報に述べたように、有明海本体における潮流の減少に対しては、堤防締め切りによって諫早湾から有明海への入退潮流量が大きく減少した効果が主体になっている。それに比べて外海の潮汐減少が有明海の潮流に及ぼす効果は小さいとみなされる。

なお元の原稿では、有明海異変の発生システム図中に示した番号が本文においても使用されていた。しかし、編集の都合により番号がすべて省略されたために、文中に空白欄が生じた。これらは以下の内容であることを補足する。

- 1 p.321 右段, 下から4行目, ⑤参照
- 2 p.325 左段, 下から15行目, ①, ⑤, ⑥, ⑦などの現象
- 3 p.325 左段, 下から5行目, ⑧に示したように
- 4 p.325 右段, 上から20行目, ①のように

また、前報の引用文献中の代田(1980)の論文名を次のように訂正する。

代田昭彦(1980): 有明海の栄養塩類とニゴリ特性. 海洋科学, 12, 127 – 137.

* 2007年6月18日受領; 2007年8月10日受理

著作権: 日本海洋学会, 2007

† 〒424-0912 静岡市清水区殿沢2-12-24

‡ 〒064-0807 札幌市中央区南7条西23丁目1-15-422

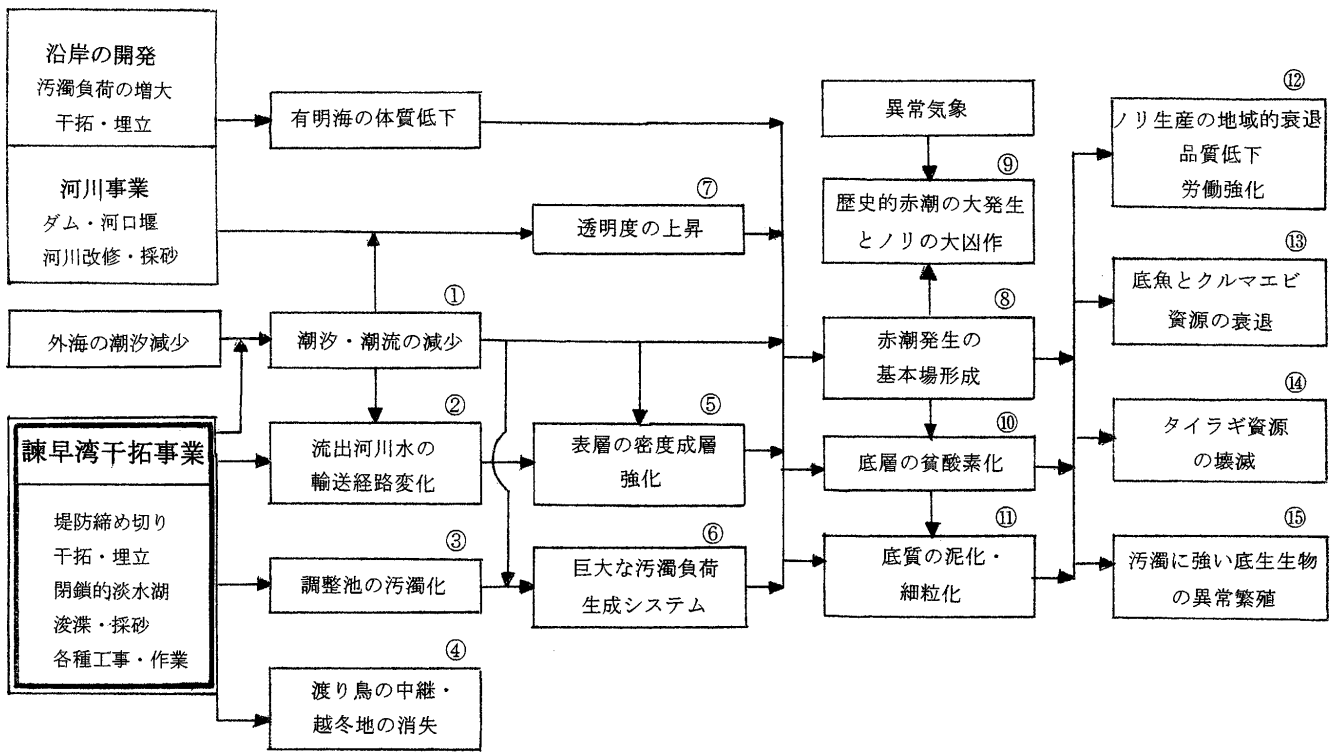


図 1. 有明海異変の発生システム図